

清泉カトリック センター便り

第23号
2017年
6月20日

【編集・発行 カトリックセンター】

今月のみことば

「心の清らかな人は、幸せ
その人は神を見る」
(マタイ5-8)

今年こそ 主のよろこびになりたい

―聖ラファエラ・マリア―

聖母月



5月は「聖母月」マリア様の月でした。みなさんはマリア様をご存知ですか？ イエス様を産んだ方、私達みんなのお母さん、いつも私達と一緒に歩いてくださる方です。

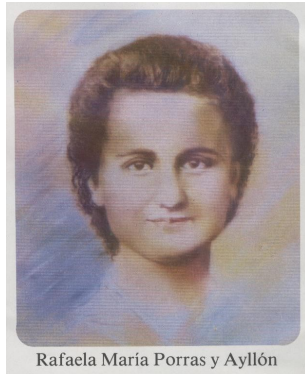
聖心侍女修道会という名称のオリジナルは **Esclavas del Sagrado Corazón de Jesús** と言います。直訳するとイエスの聖心のはしため（召使いの女）とでも訳せるのでしょうか。私達聖心侍女にとって、マリア様はお手本とすべき、聖心侍女の第一号なのです。マリア様は、イエス様を産んだから偉いのではなく、神様からの耳を疑うような呼びかけにも神様を信頼して「はい」とお答えになったから、みんなの敬愛を受けるのです。このマリア様の「はい」によって、神様の救いの歴史は始まりました。



「イエスの聖心」

ラファエラマリア様が洗礼を受けた故郷の教会のガラス戸のデザインが原案ではないかと言われています。

本学の校章にも、このイエスの聖心があしらわれているのをご存知でしょうか。



Rafaela María Porrás and Ayllón

少女時代のラファエラ・マリア

この学校の創立者が「聖ラファエラ・マリア」というスペインのシスターであること、皆さんはご存知でしょうか。もつともラファエラ・マリアさまは、「この会を創立したのは、私ではなくイエスの聖心です」とおっしゃっています。

新約聖書のルカによる福音書1章26節、38章を読んでみてください。38章の「私は主のはしためです。御言葉どおり、この身になりますように」この「はい」の場面は「お告げ」「受胎告知」というタイトルで、沢山の画家によって描かれています。今回はスペインのバルトロメ・ムリーリョ (1612-1682) の作品をご紹介します。



(清泉小学校 聖心のイエスのご像と子どもたち)
イエス様は子どもたちを抱き上げるため、両手を広げて待っているのです。

はじめまして シスター堂平です。この大学・短大の設立母体である聖心侍女修道会の一員です。「シスター」と言っても、何それ？と言う方も多いかもありませんが・・・。

さて、私は3月まで鎌倉にある姉妹校、清泉小学校で教員をしていました。日々成長していく子どもたちの歩みに同伴できたことは大きなめぐみでした。短大には幼児教育課程もあります。子どもたちの教育に関心のある方もどうぞおしゃべりに来てください。木曜日・金曜日のみですが、カトリックセンターにいます。お待ちしております。